

唯一の教育旅行専門誌

月刊教育旅行

2020.2 巻頭連載 日本の教育文化遺産を訪ねる
「折尾愛真学園 記念館」

特集

ジオパークでの 教育旅行プログラム



【国登録有形文化財】

創立85周年を迎える折尾愛真学園

折尾愛真学園は、昭和一〇（一九三五）年、増田孝によって、折尾高等簿記学校として創立された。増田が京都大学在学中、不治の病といわれた肺結核にかかり、生きる意味を模索し、内村鑑三を通して聖書そして神に出会う。

「キリスト教に基づく人格教育と社会貢献する人材育成のための職業教育」という志を与えられ、卒業後、故郷で開学、生徒15名の小さな始まりであった。建学の精神は今日まで受け継がれ、短期大学・高等学校・中学校・幼稚園・保育園を有する総合学園として、地域社会に支えられながら発展し、本年4月、創立85周年を迎える。

記念館（旧折尾警察署庁舎）

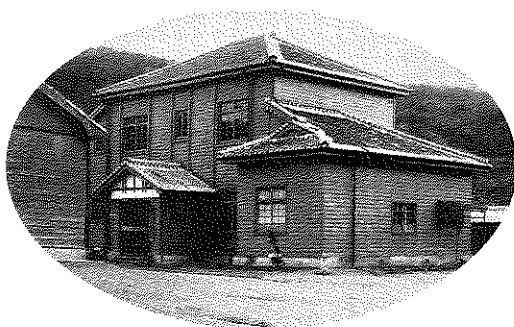
記念館は、明治四二（一九〇九）年、折尾警察署庁舎として建築され、昭和一六（一九四一）年、本学園が譲り受けた。このことの経緯を、創立者が記している。以下原文を紹介する。



折尾愛真学園記念館

「逐年増加し来れる生徒数は、昭和十六年度に於て三百名を遙かに超えることとなった。設立当時の生徒十数名に比して、隔世の感があった。この多数の生徒を収容するに校舎は甚だ狭隘であつた。校舎の建築は緊急の要請であつた。しかし新しき資材にて建築することは、当時、支那事変中の時局下にては不可能とは言わざるも、困難なることであつた。まして百坪の建築の計画に於ておや。然し困難なるが故に退くわけには行かない。信じて突き抜ける外はない。ここにも亦、幸なる機会があつた。

それは町内の旧警察署百五十坪



移築当初の記念館



折尾愛真学園 （旧折尾警察署庁舎）

福岡県北九州市

記念館



ハンドベルクワイア部部室

の堂々たる二階建の庁舎が正に売払はれんとしていることを知った。直ちに折衝を開始して、村田町長の厚意の下に買収することが出来たのである。

昭和十六年六月に着工したる建築は、その年の十二月堂々たる二階建百坪の校舎の竣工となった。

た。其の一本の柱にも、一枚の瓦にもこもる苦心の跡が偲ばれるのである。その苦心は、彼（創立者）の父と彼の胸とに刻

まれたる秘めごとであった。この校舎の竣工により生徒収容数を増加するを得て、昭和十七年度の現在に於ては、既に四百名を超える生徒が、勉学にいそしむことが出来ているのである。」

その後約45年間、本部棟・校舎として使用した。昭和六一（一九八六）年、新校舎建築に伴い、記念館として現在の場所に移築し、平成二五（二〇一三）年、改修工事を経て、平成三〇（二〇一八）年、国・登録有形文化財に登録された。現在も、創立者資料室・ハンドベルクワイア部の部室等として使用している。記念館を学園のシンボルまた地域の皆様の交流の場として親しんでいただくべく、創立85周年記念事業と

して改修工事を予定している。

記念館の特徴



小屋組・キングポストトラス

木造二階建て、寄棟屋根、瓦葺き、正面立面と背面には付柱が付いている。基礎は鉄筋コンクリートモルタル仕上げで、正面のみ基礎に当初のものとと思われる御影石が使われている。

建築当初のものと思われるモールディングを施した窓廻りと回り縁が残っており、内部装飾は簡素で、明治時代末期の特色と言える。小屋組はキングポストトラスを用いており、部材は建築当初のもの。立面は左右対称形だが、平面中央に階段は無く、平面の左右対称形は崩れ、明治時代末期の木造建築の特徴を表しており、当時の建築を知

る上で重要な建築遺構と言える。



記念館の階段

記念館見学情報

所在地：福岡県北九州市八幡西区堀川町12番10号

連絡先：折尾愛真学園 法人本部庶務部

T E L：093-602-2100

現在、事前連絡による外観のみの見学となります。

但し、学園ホームページで現在の写真や図面が見られます。

<http://www.orioaishin.ac.jp/seiwan>

注1 壁に付けた長方形断面の装飾的な柱。

注2 縁形（くりかた）ともいう、部材を削（えぐ）って曲面になった部分。建築や家具の部分装飾に用いる。（注1～2 岩波書店発行第七版広辞苑より）